

2012.7.12 宮田

# ウナギの卵大量採取

マリアナ沖

東大など 前回上回る150個

本洋マリアナ諸島沖で天然のニホンウナギの卵約150



採取した天然のニホンウナギの卵（東大気海洋研究所提供）

0個を6月に採取したと、東大や九州大などの共同研究チームが10日発表した。卵の採取は、同チームが2009年に世界で初めて成功したのに続き2回目。

前回の31個を上回る大量採取で、卵からの完全養殖の開発や、激減するウナギ資源の保全、管理の計画づくりに役立ちたい。

チームは、この10月に論文発表した09年の成果を元

に、海山が連なる「西マリアナ海嶺（かいらい）」に産卵地があると推定。海水の塩分濃度が急激に変化する潮目のある海域で、直登るが目の細かい網を引いた。

その結果、新月から数日前の6月29日の未明と夜に、水深150m前後の比較的浅い海中で、直径約1.6mmの卵を大量に採取。中には受精直後とみられる卵や、採取後にふ化した卵もあった。卵の状態から、新月の2〜4日前にかげ、夜に産卵があったとみられる。

チームは今後、産卵日や卵の状態などを詳しく調べ、謎の多いウナギの産卵について生態解明をめざす。

今回の航海では、網を入れ始めてから4回目の挑戦で卵を採取。

塚本勝巳・東大気海洋研

ニホンウナギの産卵場所と回遊経路



究所教授は「前回は何十回も網を引いたが、今回は狙いをつけて採取できた。予測確度は非常に高くならたと話している。